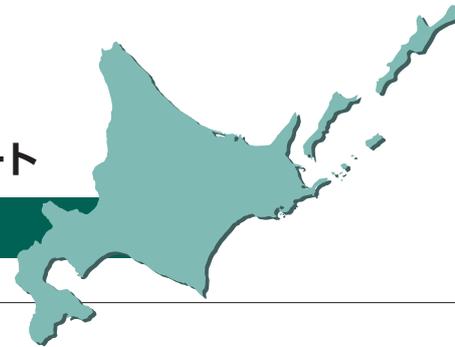


10月の道内景況

情報連絡員レポート



主要DIがそろって悪化 感染症再拡大の影響か

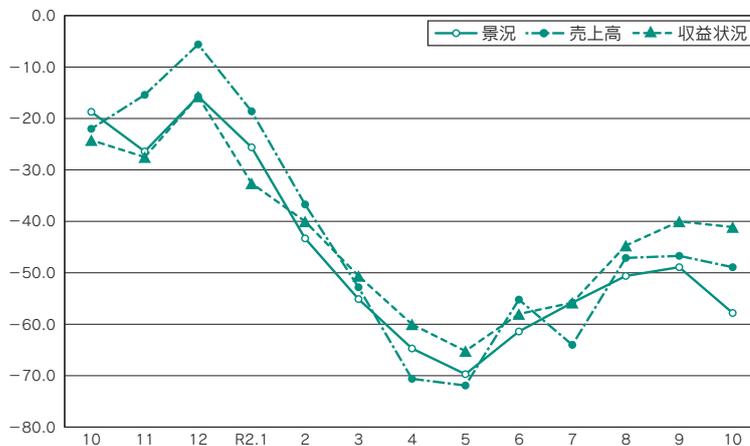
概況

全業種の主要DIの推移では、全ての項目で悪化に転じた。

業種別に見た前月との比較では、製造業では「販売価格」「取引条件」が若干回復したものの、「資金繰り」「雇用人員」は前月と同水準で推移、「景況」「売上高」「収益状況」は大きく悪化した。

非製造業では「売上高」「収益状況」「取引条件」が小幅ながら改善した一方、「販売価格」は現状維持に留まり、「景況」「資金繰り」「雇用人員」に至っては落ち込みが見られた。

主要DIの推移



景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	9月	10月	前月比	9月	10月	前月比	9月	10月	前月比
業界の景況	$\Delta 48.9$	$\Delta 57.8$	$\Delta 8.9$ ↓	$\Delta 53.1$	$\Delta 62.5$	$\Delta 9.4$ ↓	$\Delta 46.6$	$\Delta 55.2$	$\Delta 8.6$ ↓
売上高	$\Delta 46.7$	$\Delta 48.9$	$\Delta 2.2$ ↓	$\Delta 37.5$	$\Delta 53.1$	$\Delta 15.6$ ↓	$\Delta 51.7$	$\Delta 46.6$	5.2 ↑
収益状況	$\Delta 40.0$	$\Delta 41.1$	$\Delta 1.1$ ↓	$\Delta 40.6$	$\Delta 53.1$	$\Delta 12.5$ ↓	$\Delta 39.7$	$\Delta 34.5$	5.2 ↑
販売価格	$\Delta 11.1$	$\Delta 8.9$	2.2 ↑	$\Delta 15.6$	$\Delta 9.4$	6.3 ↑	$\Delta 8.6$	$\Delta 8.6$	0.0 →
取引条件	$\Delta 14.4$	$\Delta 12.2$	2.2 ↑	$\Delta 12.5$	$\Delta 9.4$	3.1 ↑	$\Delta 15.5$	$\Delta 13.8$	1.7 ↑
資金繰り	$\Delta 21.1$	$\Delta 22.2$	$\Delta 1.1$ ↓	$\Delta 28.1$	$\Delta 28.1$	0.0 →	$\Delta 17.2$	$\Delta 19.0$	$\Delta 1.7$ ↓
雇用人員	$\Delta 12.2$	$\Delta 20.0$	$\Delta 7.8$ ↓	$\Delta 9.4$	$\Delta 9.4$	0.0 →	$\Delta 13.8$	$\Delta 25.9$	$\Delta 12.1$ ↓

(凡例) 30以上 10~29 9~△10 △11~△29 △30以下



天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」)したという回答(構成比)から「減少」(または「悪化」)という回答(構成比)を差し引いた値(DI)をもとに作成。天気表示は凡例のとおりです。

製造業

- ・秋鮭の不漁により仕入コストが上昇し、加工品の価格も値上がりしている。大半は販売先を見込んで製造しているが、製造コスト、利益率に悪影響が及んでいる。(水産食料品/網走)
- ・9月単月の出荷量は、味噌が前年比増となった一方、醤油は前年比減。全国、道内ともに外食・観光業等との取引の割合が高い企業が依然厳しい状況にある。(味噌・醤油/全道)
- ・GoTo キャンペーン等の影響で個人消費は上向きつつあり、特に飲食業、観光業で活気が戻ってきていると感じる。一方、昨年実績を上回った中小清涼飲料メーカーは少数に留まり、年末商戦では昨年並みの物流となることを期待している。(飲料/全道)
- ・製材市況はカラマツは弱保合～保合。エゾ・トドマツは保合。原木市況はカラマツは保合。エゾ・トドマツは弱含み～保合。カラマツ原木、エゾ・トドマツ原木ともに在庫は潤沢だが、梱包材、パレットの受注がなく製材の荷動きは非常に悪い。ツーバイ材用の製材受注が旺盛。桟木、木質バイオマス原料は少しずつ動きが出てきている。紙原料は、紙需要が落ち込んでいることから木材チップ価格の低下が見られる。地域によって、おが粉原料用の丸太が確保・集荷されているようだ。(一般製材/全道)
- ・売上は回復傾向だが、前年の水準まで持ち直すには時間を要すると思われる。(加工紙/全道)

- ・10月の生コン出荷量は前年同月比108.0%の約419千m³。(窯業・土石製品製造業/全道・生コン)
- ・昨年は消費税増税前の9月の売上が大きかった反動減で10月売上は大きく落ち込んだが、今年は9月売上が非常に低かった一方、10月はある程度回復してきているように感じる。そのため売上は昨年同月を若干上回った。公共工事主体の業者からは、年度内の仕事はあるものの、4月以降どうなるか先行き不透明との声が多く聞かれる。民間市場はまだ冷えこんでおり、コロナ収束の目途がつかず現状の打開は難しいと感じている。(窯業・土石製品製造業/全道・ガラス)
- ・鋳造業におけるコロナの影響は5月から7月にかけてがピークであり、現在は顕著な回復傾向にあるが、産業機械向けと一般鋳物は若干回復が遅れている。(鉄鋼/全道)
- ・コロナ感染拡大の影響で新造船の受注低迷が長期化し、手持ち工事量の減少が続いている。函館造船所でフェリーを二隻建造するため、室蘭製作所でのブローック製作が来年第2ヶ月程度なくなり、修繕船橋梁陸機の工事量だけでは過剰人員が発生すると予想される。(金属製品/室蘭)
- ・コロナ感染者が再び増加傾向にあるため思うような営業活動ができない。仕入先もパソコン等での製品案内に切り替えており、現物が分かりにくい。(金属機械工作/全道)

非製造業 (卸・小売・商店街・サービス業)

- ・前年は消費税増税後の落ち込みがあったため比較して増収の企業もある一方、コロナによる減収がそれを上回っているとの回答が多い。収益・資金繰りにおいても10月は前年対比改善が見られるが、年末にかけて不安視する声が多く、景況感悪化しているとの見方が多数を占めた。靴履物では季節商品の滑り出しが前年対比順調ながら、コロナによる消費低迷で全体的な市況は回復しておらず、今後コストをどこまで抑えられるかが課題となる。組合の展示場・貸会議室は一時の開店休業状態からは脱却し、売上は平時の7割程度に回復したものの、都市部の感染再拡大を受けてキャンセルが増加している。(各種商品/札幌)
- ・コロナの感染再拡大を受け、特に飲食業に絡む組合員は厳しい状況に置かれている。福利厚生等に関する親睦事業を中心に、組合事業は、年内及び来年1月頃まではほぼ実施しないことが決定した。(各種商品/帯広)
- ・10月期の組合買付高は仲卸、荷受合計で先月実績を上回った。要因としてGoTo キャンペーン等を利用して旅行業・飲食業が活況を呈したことが挙げられ、組合員の青果物納品業が下支えを受けた形となった。一方、10月末からの感染者数の全国的な増加に合わせ伸び率は鈍化傾向を見せており、今後更なる感染拡大が生じた場合には扱い高の一層の減少が懸念される。(野菜・果実/全道)
- ・観光関連の業績は前年比6、7割程度まで回復し、菓子卸を含む小売の商況も昨年の消費税増税後の反動もあって前年を上回る結果となった。一方、業績悪化が長期化し、厳しい資金繰りに苦慮している。(菓子/全道)
- ・徐々にコロナの影響が顕在化しており、売上高は3割弱の減少となった。(木材/全道)
- ・現金支払いが多数を占める業界のため、換金に時間がかかるプレミアム商品券、GoTo キャンペーン事業の仕組みを負担に感じている組合員が多い。(各種商品/小樽)
- ・プレミアム付商品券事業の開始により、10月前半の売上は若干上向いたものの、中盤以降はコロナのクラスター発生が響いて再び落ち込んだ。10月の取扱高は、前月同様、前年を大きく下回る厳しい結果となった。(各種商品/釧路)
- ・GoTo トラベル東京解除の影響は非常に大きく、地域共通クーポンの利用により額面規模で1億円以上の経済効果が見られたが、依然として例年の売上規模には及ばない店舗も多い。(各種商品/函館)
- ・組合全体の前年比は107%。昨年同月は消費税増税の反動で買い控えが生じて大幅な売上減となったため、今回前年対比で上向いたものと考えられる。食品・スーパー関連は前年比107%、ホームセンター133%と回復傾向だが、一般店は前年比96%に留まり依然苦戦が続く。今年はコロナの影響で大売り出しの中止が決まり、盛り上がり欠けた年末商戦になりそうだ。(各種商品/芦別)
- ・売上高対前年比103.2%。日配品の売上が増加したことで収益はやや好転した。(野菜・果実/札幌)
- ・先月同様、コロナの影響で外国人観光客の来店は全くなかったが、10月からGoTo トラベル利用の観光客が少しずつ増加し賑わいを取り戻してきている。修学旅行等の団体客も増加した。例年通りのサンマの不漁に加え、鮭の不漁によりイクラの価格が高騰した。(鮮魚/釧路)
- ・GoTo キャンペーンの影響で前月に比べ来店客は増えたが、前年売上から2～

- 3割ダウンで進化した。鮭・サンマ・生筋子等の価格高騰で鮮魚の販売は厳しい。(各種食料品/札幌)
- ・10月も原油価格は乱高下が続き、月末には前月をさらに下回る価格となった。末端市場では、依然低価格競争の激化傾向が見受けられ、特に安値市況が広範囲に拡大するなど地場中小零細企業の経営は厳しい。店頭マーチンの低位傾向は相変わらず、低燃費車に乗り換えた顧客が一層目立つなど危機感をあらわにする販売業者も多い。コロナ禍による需要減も続いており、後継者問題、従業員の雇用問題等を含め、厳しい状況に直面している経営者が散見される。(燃料/全道)
- ・10月の卸値、小売販売価格はともに横ばいで推移し、収支状況も従来同様、量販店の安値攻勢により厳しい利益口銭に圧縮。販売量は回復しつつあるがコロナの影響で収益は落としている。(燃料小売業/旭川)
- ・市況価格は前月から据え置き。売上に回復の兆しは見られず、11月以降の暖房用燃料需要に期待がかかるが、気温に左右されるため楽観視はできない。(燃料小売業/稚内)
- ・家電メーカーの売れ筋商品の欠品が目立ち、販売低下を招いている。(電気機械器具/全道)
- ・外食産業等におけるコメ需要の低下に伴い、コメ自体の価格が下がっており、今後生産者の農機具需要の減少が危惧される。中小は、年末に向けて中古在庫の販売と繁忙期後の修理受注確保、大手は昨年並みの実績確保等を目標として販売活動に取り組んでいる。(農業用機械器具/全道)
- ・小売販売は鈍化傾向にある。車不足で商品自動車の仕入に苦労している。(中古自動車/札幌)
- ・コロナ禍に不安はあったが、特に都市部では自転車の売上が増加し、業界としては良い流れとなった。自転車シーズンも終わりに近づき、例年通りの落ち着きを見始めている。(自転車/自動車/全道)
- ・地元百貨店の9月売上高は前年同月比28.5%減の3億5,109万円、依然コロナの影響で厳しい状況が続いている。10月共通駐車券の利用は前年同月比71.4%、買物共通バス券は前年同月比76.6%に減少した。(帯広市・商店街/帯広)
- ・10月はGoTo トラベル、町独自の宿泊助成金の相乗効果に加え、地域内宿泊施設の連携により温泉地域全域に集客効果が表れ、ほぼ前年度並みの宿泊者数まで回復した。二次交通補助により今後都市部からの集客が伸びていくものと予想される。(旅館/音更)
- ・道内の中小IT企業は首都圏からのシステム開発受託案件の落ち込みが予想以上に少なく、今後もAI、IoT、5Gに絡む開発案件の需要増加が期待される反面、不透明感を予測する経営者も散見され、現状従業員数を維持しなくては案件をこなす体制にするなど、雇用については様子見する中小IT企業が多い。一方、産業界で進むDX化や次世代システム開発の取組みに即応できる先端IT人材の不足が続いていることから、必要最小限の理工系新卒人材や既卒技術者の採用を積極的に進めてこの1、2年を乗り越えようとする道内中小IT企業経営者の増加も見受けられる。(ソフトウェア/全道)
- ・新車販売も徐々に持ち直しつつある。(自動車整備/苫小牧)

非製造業 (建設・運輸業)

- ・公共工事は、今年度発注・年度内完成の物件は少なくなっている。民間工事は、少しずつ動きが始めている状況。工事が最終段階に進んでいくこの時期は、労務費を始め工事に関する諸経費の支払いが増加する上、年末に向けての経費も多く発生することから、しっかり資金繰りの事前準備をしておくことが必要となる。(電気工事/全道)
- ・多くの事業所で人手不足の状況が見られる。(左官工事/札幌)
- ・10月末時点での市の公共工事完工高は約6割で、残工事も11月中旬までには完了する予定となっている。12月以降は継続的な公共工事はなく、来春まで住宅設備関係の修繕工事がメインとなりそうだ。(管工事/名寄)

- ・コロナの影響で、食品関係の受注は減少傾向のまま回復の兆しが見えない。好調な宅配事業が運送収入減を補っている状況。最近のコロナ感染再拡大が更なる売上減少の要因になることを危惧している。(一般貨物自動車運送/全道)
- ・10月に入り農産物の出荷は減少傾向にある。作柄が良かったために価格が下落し、さらにコロナ再拡大の影響で消費が落ち込んでいることも要因と思われる。一般雑貨や日用品も一部の品目を除いてコロナの影響を受けており、荷動きが悪くなってきている。(一般貨物自動車運送/石狩)
- ・売上高は前年同月比で15.2%減少し、乗務員数も前年同月比5.7%の減少となったが、9月分チケット取扱高は前年同月比30.7%増加した。(一般乗用旅客/旭川)